

支えあう 住みよい社会 地域から

みんなの堺



第71号

令和6年9月発行

堺市民生委員児童委員連合会

堺市堺区南瓦町2番1号

072 (232) 5420

発行責任者 堺市民生委員児童委員連合会 会長 中辻さつ子

編集 研修・広報委員会

特集

能登半島地震

行政職員の派遣から見えること



櫻井神社拝殿。鎌倉時代前期の建築と推定され、国宝指定。(上神谷・片蔵地区)

地域福祉の推進役として

私たち民生委員児童委員は、地域の身近な相談相手であるとともに、困りごとの発見や把握、関係機関への“つなぎ役”として日々活動しています。

しかし、いつも気を張り詰めて活動していると、自分の心も体も疲れてしまいます。私は活動の合間に、街歩きやコンサートに行



くなどリフレッシュするように心がけています。

また、校区委員会では日帰り研修や会食の機会を設け、和気あいあいとした中で、民生委員児童委員として初心に戻る時間も大切にしています。

多くの皆さんが自分自身を大切にしながら、地域福祉の推進役として活躍されることを願っています。

連合会副会長 木谷 利治



民生委員・児童委員の日

5月13日

堺東駅前で

タスキ掛け通行人にPR



駅頭啓発に先立ち、参加委員らの集合写真を撮る（写真上）

通行人に民生委員児童委員活動の案内リーフレットなどを配る堺市民児連の中辻会長（写真右）



*【民生委員・児童委員の日】

民生委員制度は1917（大正6）年、岡山県で創設された「済世顧問制度」を源としています。この済世顧問の設置に関する規程が公布されたのが同年5月12日であることから、この日を「民生委員・児童委員の日」としています。

全国民生委員児童委員連合会は、5月12日から1週間を「活動強化週間」として民生委員・児童委員活動周知のための取り組みを強化する期間としています。

（全国民生委員児童委員連合会ホームページから）

堺市民生委員児童委員連合会は5月13日、堺東駅前「民生委員・児童委員の日」にあわせ、同連合会理事・監事22人、堺市職員5人に社協職員7人が3班に分かれて啓発活動を行いました。

「民生委員児童委員です」「身近な困りごとは民生委員児童委員に相談してください」などと通行人に声をかけ、民生委員児童委員活動の案内リーフレットなどを手渡しました。

「民生委員・児童委員の日」*と定めている5月12日からの1週間、全国で活動紹介パネルの展示や公共施設などでのPR動画放映、一日民生委員児童委員の委嘱など、さまざまな取り組みが行われています。

第71号もくじ

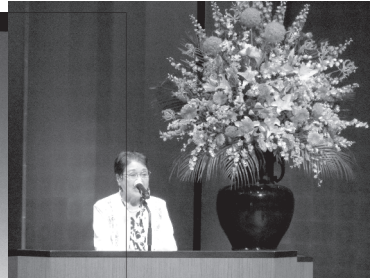
- 2 「民生委員・児童委員の日」PR
- 3 第29回堺市民生委員児童委員大会
地域のつながりづくり推進へ
730人参加、124人が表彰
- 4 特集
「能登半島地震 行政職員の派遣から見えること」
堺市社協・全市民児連の支援活動
- 8 校区めぐり 堺区（6校区）、中区（5）
東区（3）、西区（5）、南区（7）、
北区（5）、美原区（2）

- 14 専門委員会研修会報告
主任児童委員会
高齢者福祉委員会
障害者福祉委員会
- 15 「震度6弱以上の地震が起こったら」
堺市の災害対応
指定避難所設置と支援の内容は
- 16 想定される災害を知ろう
御霊よ 安らかに
編集後記

7月4日
フェニーチェ堺
730人参加

第29回 堺市民生委員児童委員大会

地域のつながりづくり推進へ



第一部の式典であいさつする中社会長（写真左・左上）。永年勤続表彰を受ける委員（写真上）

第29回堺市民生委員児童委員大会が7月4日、フェニーチェ堺大ホールで開催され、堺市民生委員児童委員連合会活動報告、124人の永年勤続表彰のほか講演会が行われ、730人の民生委員児童委員が参加しました。

5年表彰	18人
10年表彰	101人
20年表彰	3人
30年表彰	1人
40年表彰	1人

第一部の式典は、民生委員の歌「花咲く郷土」の唱和・物故民生委員に対する黙とう、市民憲章・民生委員児童委員信条・児童憲章朗読のあと、永藤英機堺市長・中辻さつ子堺市民生委員児童委員連合会長あいさつや来賓祝辞に続き、同連合会活動報告があり、124人の永年勤続表彰（年数別内訳は右上表）、大会宣言が行われました。

永年勤続被表彰者は、校区别では堺区21人、中区15人、東区20人、西区19人、南区24人、北区21人、美原区4人となっています。

信友直子氏招いて講演会

式典のあと第二部では講演会が行われました。演題は「ほどよくゆるく、まーるくつながる地域のかたち～おたがいさまの社会に生きる幸せ～」。講師は信友直子氏。ドキュメンタリー映画「ぼけますから、よろしくお願いします」制作の舞台裏から、認知症や高齢者に対する接し方など、体験を通じて感じた民生委員児童委員活動への感謝の気持ちを話されました。

櫻井神社拝殿



表紙写真

鎌倉時代前期の建築とされ、^{にじゅうこうりょうかえるまた}「二重虹梁墓股」の架構、中央間を土間の通路「馬道」とした割拝殿。祭神は仲哀天皇・応神天皇・神功皇后とされ、「^{にわだに}上神谷八幡宮」とも称される。

大正6年国の特別保護建造物に、昭和28年に国宝指定。「上神谷のこおどり」は国選択・大阪府指定無形民俗文化財、「応永19（1412）年」銘の石燈籠は大阪府有形文化財。

（堺市ホームページから）

特集

能登半島地震

避難者同士が支え合い

行政職員の派遣

から見えること

災害対策の大切さ痛感

1月1日の能登半島地震の発生により、堺市では直ちに被災地支援活動を開始しました。4月に北区役所で開催されていた「防災展」において、同区役所から被災地へ派遣された職員のインタビュー記事が展示されていたので、以下のとおり抜粋して掲載します。4月8日までに一般職員12人（5月末で17人）、保健師8人が派遣され、現地公民館などで避難所運営支援や被災者の健康相談活動に携わったそうです。

そこから見てくることを考えてみました。



被災地の状況

能登町では

発災から20日目（1月20日）

北保健センター・B保健師

- ① 健康観察等。
- ② 電気は使えたが、水道が使えない。
- ③ 各避難所で発熱者があり、感染対策を要した。
避難所の管理者は協力的で、連携が図りやすかった。
- ④ 物資は十分に届いていた。
感染者とトイレを分けることができなかった。

※①担当業務 ②現地の状況 ③被災者の様子
④避難所の様子

現地で困ったこと 断水状態のため手洗いが十分でなく、衛生面の保持に留意を要した。

派遣を終えて 平時の保健師活動と基本は同じであって、日ごろの業務遂行のなかでスキルを積みあげていくことが大切であると感じた。

輪島市三井公民館では

発災から14日目（1月14日）

生活援護課・A男性職員

- ① 避難所運営（支援物資の搬入・仕分け・在庫管理）、自衛隊炊き出しの配膳、仮設トイレ・シャワーの清掃等。
- ② 道路が地割れしていたり、マンホールが隆起、建物が倒壊していた。雪の降った日もあり、特に朝方は冷え込んだ。
- ③ 三井公民館の避難者は大半が高齢者で、発熱していたのは一人。そのほかの人々は健康状態に問題なし。避難者同士で支えあい、協力して生活していた。
- ④ 食糧・衣服・日用品、支援物資は豊富で、避難者のほか近隣に住む被災者の来訪もあった。

現地で思ったこと 断水で風呂に入れない。電気は使用可能。いつ地滑りが起こってもおかしくない状況で、危険を感じた。

派遣を終えて 実際その場面になると想定外の状況が多々出てくることを痛感した。実際により近い状況を想定して災害対策をしていくことが重要であり、日々改善していくよう努めなければならなかった。

（※本特集欄の掲載写真は北区役所自治推進課提供）



（写真左）根こそぎなぎ倒された電柱。電線が垂れさがっている
（写真右）根元から曲がって傾いている交通信号機。道路には積雪がある



発災から28日目（1月28日）~~~~~

（「能登町では」 つづき）

北保健センター・E保健師

- ① 避難所の巡回による健康相談
- ② 電気・水道は復旧していた。倒壊した建物が周辺に見られ、道路は一部崩れたり亀裂が入っている状況であった。
- ③ 被災後1か月近くたった時期であり、インフラの一部復旧等もあり、避難所の生活は一定整っていた。
介護や精神など福祉的な支援が必要な方を個別に支援した。避難所生活が長引き、精神的・身体的に疲労を感じている方が多い印象であった。
- ④ 食糧は炊き出しも行われていた。生活空間は段ボールベッドを使用して仕切っていた。

現地で感じたこと 水道の復旧が一部に限られていたこと。

派遣を終えて 災害で避難した経験がないため、避難所での生活についてイメージをもつことができた（仕切りはあるが、外から見えるためプライバシーがない場面がある、など）。

堺市が被災し、受援の立場になった時、どのような活動をしたらよいのかを考える機会になった。

~~~~~ 発災から30日目（1月30日）

（「輪島市三井公民館では」 つづき）

保険年金課・F男性職員

- ① 避難物資の発注および在庫管理、避難者の要望聞き取りなど。
- ② 道路はコンクリートが割れたまま、建物は倒壊して道をふさいでいる所が多数あった。歩道は地面が隆起したりガラスが落ちていたり、安全に歩ける状態ではなかった。
上下水道はともに停止。
- ③ 避難所の管理者は地域の人々との連携が非常に大事。避難者の状況把握は地元の役員が請け負っておられた。
- ④ 物資はなかなか納品されず、代替品が届いてもニーズにそぐわないことも多々あった。
夜は非常に暗い。

現地で困ったこと 断水はひじょうに不便。水洗トイレの重要性を再認識した。

現地で感じたこと 発災後はまずトイレが一番重要であると感じた。

避難所運営は普段から行政と地域が密接な関係を築くことが大事であると感じた。



降雪の残るなか、灯油など暖房用燃料を補給（写真左）したり、仮設トイレの汲み取りを行う人たち



発災から48日目（2月17日）

（「能登町では」つづき）

北保健センター・L保健師

- ① 75歳以上の高齢者の家庭訪問など
- ② 古い家屋は半壊から全壊が多く、建物の危険度判定はほぼ済んでおり、緑・黄・赤の張り紙が張られている。

電線が垂れていたり、瓦が落ちてきそうな場所があり、ヘルメット着用が必要だった。

- ③ 避難者は減ってきている。高齢者で、福祉避難所入所を勧められているが、家族と一緒にいることを希望して避難所に残っている方も多かった。
- ④ 食料品は十分ある。

病院が再開してきているため、常備薬の支援を終了した。

段ボールの仕切りはあるが、2人おきの避難所もありプライバシーの保護は十分でなく、隣の人のトラブルについても相談があった（巡回時）。

現地で困ったこと 断水が継続しており、トイレが少なくて困った。毎日給水車は来るが、水を運ぶのが大変と訴えられた（訪問した高齢被災者）。

派遣を終えて 災害対策の大切さを改めて実感した。日ごろの活動の重要性を痛感。

発災から62日目（3月2日）

（「輪島市三井公民館では」つづき）

自治推進課・N男性職員

- ① 避難所の運営補助、物資の管理、施設管理（雪かきなど）。
- ② 輪島市内では家屋等の多くが倒壊したままで、撤去が追いついていない。
道路も陥没したまま。上水道は使用不可。下水道浄化槽が破壊されており、使用不可。
- ③ 互いに気づかい合い、近況を報告し合うなど普段からのつながりの深さが見受けられた。
従事初日もちつき大会が行われており、避難生活が続くなか、少しでも元気にがんばろうとする気持ちを感じられた。
- ④ 支援物資は充実していたように感じた。

現地で感じたこと

停電を経験し、発電機の重要性を感じた。

物資の配付はさまざまな方への対応基準を示さないと、必要な人へ届かないかも。

総 括

現地の状況

電気は早い段階から通じていた。

断水は1月下旬から徐々に復旧したが、飲み水としては使用不可。

下水道管の損傷が大きいため、現在もトイレに水を流すことができない。

倒壊した建物はそのまま。道路は地割れがひどく、安全に歩けない。傾いた電柱から電線が垂れさがっていた。

被災者の様子

避難所には高齢の方が多かった。

避難者同士で協力し合いながら前向きであったが、避難所生活が長引くにつれて精神的にも身体的にも疲労を感じている方が増えた印象を持った。

長引く避難生活によるストレスからかコーヒーやお菓子などの嗜好品を望まれることもあった。情報の共有はスムーズに行われていた。

避難所の様子

三井公民館には自主防災会のような組織はな

かった（小学校指定避難所では自主防災組織があった）。

避難所には、比較的早い段階から食料品等の支援物資は届いていたようだが、野菜類の摂取がどうしても不足していた。

ニーズの高い肌着やハンドクリーム、爪切り、はさみ、長靴（安全靴）等の生活用品が不足していた。

女性の視点として、更衣が段ボール間仕切りで行われていたので、男女別テントがあればよかったのでは。

トイレ内の生理用品やトイレペーパー入れを、黒いビニールにするなどの配慮が必要。

感染者と健常者の部屋やトイレを分けていない避難所があった。

派遣を終えて

堺市が被災して支援を受ける立場になったとき、役所の前さばきが重要（時系列の明確化、最新情報の提供、窓口のワンストップ化等）。

堺市社協の支援活動

堺市社会福祉協議会は、被災地社会福祉協議会からの要請にもとづき、近畿圏の他社会福祉協議会とともに石川県志賀町と七尾市に、1月25日から6月30日まで、のべ30人のべ206日の職員派遣を行いました。

派遣先では被災地社協が設置する災害ボランティアセンター（以下「災害V C」とする）の運営支援の職務に就きました。災害V Cは風水害や地震、津波被害等の影響により被災された地域に設置され、「手伝ってほしい」という被災者の依頼に、「手伝いをしたい」というボランティアを調整させていただき、被災者・被災地の生活再建の一助となる活動を行います。

今回は、被災された地元の民生委員児童委員等の方々とともに住民の生活再建のために様々なご支援をさせていただきました。土地勘のない我々派遣職員にとって、地元の民生委員児童委員からいただく様々な情報やアドバイスは、とても重要なものばかりでした。また依頼者とのコミュニケーションやボランティア活動者に対する地元ならではのお声がけなど、多くの場面で役割を発揮させていただきました。

堺市においても、いつ被災するかわかりません。派遣活動を通じて、堺市が被災した際に堺市民児連のみなさまと力をあわせた支援活動を行うことの重要性をとても強く感じました。

全民児連の支援活動

全民児連では、近年多発する大規模な自然災害に備え、平成29年10月から「被災地民児協支援金」口座を常時開設しています。支援金は、全民児連「被災地民児協支援金」運営要綱に基づき、大規模災害被災地等に送金されます。

同支援金は災害救助法適用災害の被災地民児協、民生委員児童委員に対し、「見舞金」「支援金」として資金援助されることになっています。

◆民生委員児童委員の被害・対応状況

石川県では、民生委員児童委員の死亡、負傷等の被害は確認されていません。しかし住家被害は複数発生している模様で、全容把握にむけ情報収集が行われました。

行政や社協等から、通常の見守り活動に加え支援ニーズの聞き取り依頼があり、継続的に対応している状況です。また一部地域では民生委員児童委員を対象にした被災者の支援ニーズ聞き取りにあたって接し方等に関する説明会が開催されました。

災害ボランティアセンターの支援ニーズ確認で、センター職員が民生委員児童委員と一緒に回ると効果的であることが判明しています。

（被災4県1市 民児協等からの聞き取り概要・一部から）

校区めぐり

コロナ禍を経て、各校区における各種活動の様子を自由に書いていただく、3回連続で「校区めぐり」を始めます。



□ 堺 区

三宝校区 「校区一丸」となって

当校区は堺のいちばん北西にある広い校区です。人口約9,400人、世帯数は4,650戸です。校区内には大きな特別養護老人ホームがいくつかあり、第一地域包括支援センターがあります。高齢者にとって住みやすい町です。

校区では月に一度の会議を開き、各種団体の方々に参加していただき、連絡連携を行っています。地域では「いきいきサロン・ふれあい昼食会・仲よし広場」等を開催し、校区一丸となり、がんばっている町です。これからも民生委員児童委員会だけではなく、校区全体で見守っていききたいと思います。

(比嘉 雅也)

錦西校区 つながりを深める研修会

当校区では基幹型包括支援センター、第一地域包括支援センター、ケアマネジャーさんと定期的に研修会を行っています。

校区内を、ノルディック（※ポール）を使ってウォーキングしながら介護施設・福祉施設を見学し、施設の方から説明を受けたり、ウォーキングコース内で気になる箇所をチェックする活動や、地震が起こった際に支援が必要な方の避難経路・方法を話し合い、班に分かれて実際に車イス等を使って歩いてみて、危険な箇所を検証する活動等を行いました。

今後も自分たちで体験し話し合っ、委員や地域スタッフとの連携を強め、地域とのつながりを深めていきたいと思います。(照屋 千冬・山崎 尚子)

錦校区 歴史と伝統の街の発展におけて

当校区は、令和4年12月の民生委員児童委員一斉改選で、14人中10人のメンバーが入れ替わりました。年齢層が若返って、和気あいあいと活動しています。

メンバー全員が各担当町会での活動を行いながら、校区福祉委員会にも所属し、「ふれあい喫茶にしき」や「会館であそぼう」「子育てふれあいサークル」「ふれあいいいきいきサロン」の運営・お手伝いや、『広報にしき』の発行などの活動を通じて校区の老若男女への福祉活動に協力させていただいています。

私は日々の活動以外では、『広報にしき』をパソ

コンで作成しています。これからも、民生委員児童委員活動や『広報にしき』を通じて、校区の皆様へ福祉活動や様々な情報を発信し、歴史と伝統の街「錦」校区の発展に微力ながらも貢献させていただきたいと思っています。(田中 寛信)

錦綾校区 子ども食堂「キッチン錦綾」

平成29年8月30日に、第1回子ども食堂「キッチン錦綾」を開催して以来、今日に至っています。毎月1回、最終水曜日午後4時30分から5時30分の間に、100食分限定でお弁当を配食しています。

子ども限定で無料。場所は錦綾校区地域会館で行っています。食材等は「さかい子ども食堂ネットワーク」を通じての支援品や、「大阪府子ども食堂における食の支援事業（食品セットの配布）」など、多くの方々からのご支援で賄われています。

担っているのは、民生委員児童委員と10数人のボランティアで、校区福祉委員会にも協力いただいています。献立を考えるとところから始まり、調理を終え、でき上がったお弁当を元気な笑顔で受け取ってくれるのは何よりうれしいものです。(二宮 康子)

市校区 校区今昔

かつて「黄金の日々」といわれ、繁栄を誇り商業、経済の要の地だったのが、市校区です。市が立ち栄えていたので「市之町」「栄橋町」の町名がついたとも伝えられています。しかし近年は、当時の繁栄ぶりをうかがうことはできず、寂しいです。

現在、旧堺港地に商業施設が建設中で、開業間近です。ファミリータイプのマンションも多数建ち、就学児童数も増えてきて、復活の兆しを感じています。地域の会館では高齢者のいきいき喫茶「市ちゃん」が月2回、就学前児童とその親子の交流の場「ぼっぼちゃん」が月1回催され、にぎやかな声が響いています。(大口 紀子)

熊野校区 変わりゆく街でつながり活動

熊野小学校は堺の中で最も古い小学校の一つです。校内には明治天皇の玉座が保存されていますが、公開されていません。官公庁やスーパーなど生活利便施設も徒歩圏内なので、マンション等ビルが多く建設され、街並みが徐々に変わってきました。

生徒数は減少の一途です。地域交流の一環として開いていた「ゆや朝市」は、コロナ禍での中断を経て流しそうめん(8月)、もちつき大会(12月)が復活。4年生児童の“二分の一”成人式、6年生対象のテーブルマナー教室を実施しました。

このような活動をして、地域のつながりを深めています。(辻野 耕司)

校区めぐり

□ 中 区

八田荘校区 **こちょうらの会**

70歳以上のおひとり暮らしの方を対象に、お食事会「こちょうらの会」を春・秋の年2回、民生委員児童委員が主体で開催しています。

会場は、自治会館のある6箇所を順番に回ります。1999年10月27日の第1回開催後、コロナ感染症拡大の間は休止しましたが、今年の春の開催で第44回となりました。

当初は介護保険制度施行前で、地域も介護の担い手になるよう、さかんに言われ出したころでした。予算のない中、当時の委員長が当校区でも何とかしないとイケないとの強い思いから、参加者には100円の負担をしてもらって開催しました。

現在ではボランティアの皆様にお手伝いをしていただき、毎回工夫をしながら開催しています。

(日野谷 繁之)

八田荘西校区 **ただ今奮闘中！**

当校区は八田荘校区から分離し、畑や丘陵地を再開発してできた比較的新しい校区です。

少子高齢化が進み、子ども会は廃止、老人会も役員不足で縮小傾向です。自治会加入が30%を切るボーダーラインです。

その中で、民生委員児童委員8人、主任児童委員1人が見守り活動、子育て支援、語らいサロンに加え、各自治会役員兼務で、ただ今奮闘中の活気ある民生委員児童委員会です。(福原 日出雄)

深井校区 **地域とともに**

「深井」という地名は、僧行基が掘った深い井戸によって、人々の生活が豊かになったことから名づけられたと伝えられています。

明治22年4月に町村制施行により「深井村」と名づけられ、昭和17年に堺市に合併編入後、昭和18年9月から現町名に変更となりました。また、昭和46年に泉北高速鉄道深井駅が開業し、人口の増加に伴い、昭和57年に東深井校区、昭和61年に深井西校区に分離し、現在に至っています。

私たちは日々の活動のほか、校区自主防災訓練、泉北一号線美化運動(春・秋)、子育てサークル、ペンギンキッズ、ふれあいの集い等、各種団体とともに支援しています。

毎月の定例会議には、中第一地域包括支援センターからも出席していただき、情報交換を行いながらセンターと連携して日々取り組んでいます。(南埜 孝則)



深井西校区 **各種行事で元気な地域**

当校区はだんじり祭りを軸に、地元のつながりを大切に、「年長者を敬う」「若い世代を育てる」といった人材育成文化が生きている町です。

校区福祉委員会、民生委員児童委員会では地域の会館を活用して「いきいきサロン」「子育てサロン」「校区ボランティア・ビューロー」「ふれあい喫茶」の運営等の地域福祉活動を実施しています。

また、高齢者・障害者世帯への「お元気ですか訪問活動」を実施しています。

深井北町・中町西の各自治会では盆踊り、だんじり祭りも盛大に実施して、地域にお住まいの方々の親睦を深め、ますます元気になっていただけるよう、皆さんとともに活動していきたいと思います。(福渡 富男)

東深井校区 **普段から心がけ実行していること**

私が民生委員児童委員として、普段から心がけ実行していることは、子ども・お年寄り・生活困窮者などいわゆる「生活弱者」といわれる人たちに対し、「思いやり」「寄り添う気持ち」で積極的に声かけ、あいさつをするようにしていることです。

一度声かけやあいさつをすれば、次に会った時はお互いに気軽に声をかけられるようになります。自宅が通りに面しているため、季節の花を植えたり野菜を植えて、関心を持ってもらえるようにしています。

また、自宅を訪問した際には季節の話題や迷惑にならない程度に家族のことや近況、困りごと等を聞くようにしています。

当校区は、8月から新任委員3人を加えた14人体制になります。委員一丸となってがんばっていきます。

(山口 八郎)

校区めぐり

□ 東区・美原区

南八下校区

住み続けたい街をめざして

当校区は、古墳時代から中世にかけての遺跡である「石原町遺跡」に見られるように、いにしえの時代から水田耕作を中心とした農耕文化が栄えた地域です。しかし今では、季節を感じるのどかな田園風景と市街化された住宅地が共存する地域といえます。

少子高齢化の中、子どもを対象にした活動への助成、高齢者を対象にした無料のふれあい喫茶事業とともに世代間交流を意識した各種事業を進めています。

民生委員児童委員会は子育てサロンの運営を担い、子育て世代の交流、悩みや疑問の解消にむけた取り組みを、行政の協力を得て実施しています。

今後とも住みたい街、住み続けたい街をめざし取り組んでいきたいと思っています。(稲谷 忠美)

八下西校区

人とのつながりを大切に

当校区では、年に3回「いきいきサロン」を開催しています。参加者はいつも80人以上で、毎回大盛況です。そのほかディスコン、グラウンドゴルフなどを実施して、交流を深めています。

「お元気ですか訪問」も実施しており、お一人暮らしの方とも関わり、言葉を交わしてコミュニケーションをとっています。「ふれあい映画会」は、2か月に1回開催しています。

ふれあい喫茶、子育てサークル、見守り活動などは地域の方が協力し、つながりを大切にしています。10月には「八下西校区ふれあい運動会」で子どもからお年寄りまで参加して、楽しく交流して体を動かしています。(久保 恵美)

白鷺校区

地域連携・相互協力を大切に

白鷺小学校は昭和40年に開校し、校区は旧集落・新興住宅・団地とで構成されています。最近、団地の約半分がマンションと戸建て住宅に変わり、新しい町が創生しつつあります。

連合自治会は小学校を中心として、地域連携・相互協力を大切に運営され、我々も地域の一員として連合自治会と連携し活動しています。しかし自治会は、住民の高齢化と担い手不足等により2つ減少し、現在は22自治会になっているのが現状です。

65歳以上の高齢化率は29.6%で、0.9%改善しました。新しい町には若い子育て世代も多く、小学校の生徒も少しずつ増加の傾向にあり、喜ばしいことです。

我々もコロナ禍で活動が制約されてきましたが、「いきいきサロン」を4年ぶりに白鷺小学校体育館を

お借りして復活することができ、我々の活動もやっと通常に戻った感があります。(宮前 久数)

黒山校区

子どもたちとの関わり

黒山小学校は昨年、創立150周年を迎えました。その記念誌に掲載されている昭和53年の「朝日新聞大阪〔南〕版」の記事によると、当時10年間で児童数が倍増し、998人・26学級になり、2年後には校区の分割も計画されていると書かれていました。

ちなみに、現在(2023年度)の児童数は368人と40数年が経って約3分の1にまで減少しています。そこに通う子どもたちは当時と変わりなく、元気に通学し、子ども見守り隊の活動のもと、毎朝元気にあいさつをしてくれます。

校区福祉委員会活動として実施している小学生以下の子どもの対象とした「世代間交流」事業(年間3回実施)でも、活発に動き回る姿を目の当たりにし、常に我々が元気をもらっています。

高齢者との関わりが比較的多い民生委員児童委員活動において、唯一とっていい子どもとの関わりで、これからも継続して実施していきたいです。

(天見 文昭)



美原西校区

担当地区の垣根を越えて

当校区は約2,100世帯、人口約4,600人。三つの自治会で構成されており、堺市総合防災センターや「ららぽーと堺」等の大型商業施設へ徒歩・自転車で行動可能な地域です。

民生委員児童委員6人、主任児童委員1人で活動しています。ほとんどの方が働きながらの活動なので、時には担当地域以外であっても、「助っ人」としてその地域に赴くこともあります。校区委員会に主任児童委員から高齢者情報を提供されることもあります。

担当地区の垣根を越えて活動を始めたのは、2022年の一斉改選で半数が新任となり、助け合う必要性からです。今ではコミュニケーションも円滑であり、委員7人のチームワークを発揮して、地域のためにこれからもがんばります。(阿部 美奈子)

校区めぐり

□ 西 区

浜寺石津校区 **委員活動**

当校区では、「お元気ですか訪問活動」「ボランティア・ビューロー」などの活動以外にも、定期的な活動があります。「いきいきサロン」では歌、体操、園児へのプレゼント作りなどのお手伝いをしています。サロン後の「コーヒESHOP」では委員も同席し、お話をうかがう機会を設けています。

「子ども食堂」ではボランティアさんとともにおいしい食事作りを楽しんでいます。放課後の小学生の宿題や勉強のサポートをする「石津っ子クラブ」や、子育て応援活動の「にこにこ広場」があります。どちらもボランティアさんのお力添えをいただいています。

さまざまな活動を通して、地域の皆さんとのつながりが広がることを願っています。(楠 秀子)

浜寺校区 **見守り、情報共有**

校区内では南海電鉄の高架工事が進み、仮線の設置とともに諏訪ノ森駅隣接の踏切道が長くなり、高齢者・児童が渡るのに、より時間がかかっています。

また、浜寺小学校の校舎建て替え工事が進むに従い、完成予定の令和8年まで、仮教室を使つての授業、近隣小学校の運動場をお借りしての体育大会等、工夫した学校運営が行われています。

災害に備えての校区防災訓練も、浜寺小学校が使えないので浜寺南中学校までの避難想定をし、ルートの開拓・チェックポイントの工夫等、浜寺昭和校区の方々の協力をいただきながら実施しています。

そんな状況の中で、高齢者・児童生徒の見守りや情報共有を含め、民生委員児童委員の活動を進めています。(岸村 伸一)

浜寺東校区 **世代間交流**

当校区は1987年4月に浜寺小学校から分離して、浜寺東小学校が開校され、浜寺石津町東5丁・浜寺船尾町・鳳北ガーデンシティが区域です。

この区域には、今池とその北側から縄文式土器が出土し、「四つ池遺跡」とよばれているエリアがあります。また、現国道26号線の整備に伴い宅地開発が進み現在約2,200世帯が居住しています。

夏には「ふれあいカーニバル」、秋には「ふれあいスポーツ大会」、冬には「餅つき大会」と自治会活動も盛んで、住民の世代間交流をめざしています。

いきいきサロンや子育て広場、子ども食堂と高齢者や子どもさんにも支援できるよう、がんばっています。(小田 正登)

浜寺昭和校区 **安全・安心して暮らせる我が町**

当校区は、日本最古の公園で名松100選に選ばれた浜寺公園、文化財の浜寺公園旧駅舎があります。自治連合会は公園での「ローズカーニバル」や旧駅舎を活用した地域活性化・文化的交流を図っています。また、地域での福祉活動や行事を通じて、人と人とのつながり、コミュニケーションを深めています。

特に、防災活動は臨海部に位置するわが校区で地震災害時に発生する津波を想定し、避難訓練の実施・避難地図の作成をしています。

私たち民生委員児童委員は自治連合会のこれらの諸行事や活動に参加するとともに、高齢者・児童の見守りを行い、地域の方が安全・安心して暮らせる町づくりに協力しています。(肥田 謙二)



鳳校区 **「だんじり」でつながる鳳校区**

当校区には国道26号線、府道30号線、JR阪和線が通り、交通の便は抜群です。加えて「小栗街道」(熊野古道)が校区のまん中を貫き、沿道には「千種の森」を擁する大鳥大社が鎮座、歴史を感じさせます。

日本平定の道半ばで倒れた日本武尊の御霊が白鳥となって飛び立ち最後に舞い降りたのがこの大鳥の地。そこに社を建てお祀りしたのが大鳥大社の起源とか。

秋には「だんじり」が大鳥大社に宮入り後、校区内を駆けめぐり、人々のきずなを深める重要な役割を果たします。幼稚園児の曳行、元気な少年団・青年団の曳行、お隣さんを交えての見送り。

忘れていた「向こう三軒両隣」という言葉を思い出す機会としたいものです。(龍野 信隆)

校区めぐり

□ 南区

福泉中央校区 **楽しくつながろう**

当校区では「お元気ですか訪問活動」はもとより、人の絆を大切にするため、ボランティアさんを巻き込んだ行事を企画・運営しています。子育てサロン「プーさん」は若い世代のパワーと発想力で楽しい企画が増え、日曜日開催の日にはお父さんたちも童心にかえり楽しく過ごします。

夏休み・冬休みには小・中学生たちを巻き込み、カレーパーティー・ピザパーティーを行います。桜の開花時期に合わせた野点の会、地区持ち回りの喫茶・サロン。ここでも親子ボランティアが活躍します。

回を追うごとにたくさんの方がつながり、たくさんの笑顔に出会えますように……。 (藤原 秀美)

赤坂台校区 **子どもたちのために**

4年ほど前、小学校の先生から「朝ご飯を食べられない子どもがいる。」との話を聞きました。こども広場でこの話をしているうちに、子ども食堂をつくろうかという話にまで進みましたが、以前、うまく運営できなかったことがトラウマになり、まず経験とノウハウを蓄積するために、現時点で最も簡単な食料品の配付から始めることにしました。

幸い、中学校PTAのOGのつながりから生まれた“お福分け隊”が主体となり、「ふーどばんくOSAKA」から食品を分けてもらうことができ、2022年5月に校区で60食分を配付しました。以来、5回にわたり年2回のペースで配付を続けています。

なかなか目的とする子どもに届くことは多くありませんが、「継続は力なり」を合言葉にがんばっています。 (四谷 任)

新檜尾台校区 **環境も人材も地域の財産**

新檜尾台は自然豊かな環境に恵まれており、公園を愛するパークレンジャー（ボランティア）が、安心安全な環境作りに日々取り組んでくれています。木々の成長で埋もれていた紅葉谷が明るい散歩道になり、メタセコイヤの並木も整備が進んでいます。秋には校区行事として「秋の公園まつり」を催し、みんなで公園清掃をして集めた落ち葉で焼き芋大会をしたり、どんぐりを拾い集めては奈良の里山（鹿）に届けています。公園広場では毎月モルック（ゲームスポーツ）を開催し、世代間交流を図っています。

地域の高齢化が進む中でも、子育て世代が中心になり、近隣センターでマルシェを開催するなど“まち”を活気づけてくれています。 (竹本 友巳子)

上神谷校区 **新たな活動に燃えています**

校区名を上神谷「にわだに」と読みます。泉北地域の南東部にあり、昔から大阪の米どころとして有名です。古くは神を「みわ」といい、神がこの地に降りてこられたことから「上神郷」（かみつみわのさと）と呼ばれ（みわのさと）が（にわのさと）となり、明治に地域の村が合併して「上神谷」となったようです。

歴史豊かな校区には古刹も多く、国宝の櫻井神社、法道寺、無形民俗文化財の「上神谷のこおどり」など。

委員の活動は旧村ならではの地域密着です。校区全体の活動が少ないのが悩みです。昨年、新たに「上神谷校区福祉委員会」再結成に合わせ、委員一丸となり、新たな活動に燃えているところです。 (藤本 寛宏)

美木多校区 **垣根を低くする努力**

当校区は泉北ニュータウン梅地域と光明池地域の間の谷、和田川沿いの旧美木多村の地域（人口 5,400人 2,200世帯）と、泉北高速鉄道光明池駅前の鴨谷台地域（人口6,800人 3,200世帯）から成ります。郷名「和田（にきた）」の時代から人の営みがあった地域と、50年ほど前に開発された地域です。校区としての各種取り組みを行う場合、地域間の差がどうしても出てしまいます。校区の心ある人たちは、何とか「美木多と鴨谷の間の垣根を低くしよう」と努力してきました。今、防災についての取り組みを考えると、垣根を低くする努力が求められていると思います。 (堀川 正年)

城山台校区 **子育てサロンとボランティア・ビューロー**

サロンは毎月第1火曜日に開催しています。福笑いリズム遊び、プール。12月はサンタさんからプレゼントをもらって笑顔いっぱい。来た時は泣いていた子ども帰りはスタッフにハイタッチをして帰ります。

ボランティア・ビューローも人気があり、男性は囲碁、将棋。女性は手芸、ゲームなど。毎回25人ほどでティータムの予算がオーバーするほど参加してください。部屋が狭くなり、二部屋に増やすなど工夫してがんばっています。 (池西 富子・中村 恵子)

宮山台校区 **いきいきサロンは憩いの場**

校区内には日本最古といわれる登り窯が保存され、多治速比売神社や梅林で有名な荒山公園が隣接し、よき散歩コースです。月1回のふれあい喫茶は、朝の子ども見守り活動の帰りや散歩のついでに来られる方で大にぎわい。子育てサロンの参加は少ないです。月4回のいきいきサロンは小物作り、脳トレ、健康講座、ゲーム等楽しく過ごす高齢者の憩いの場として喜ばれています。一人暮らしの方やひきこもりがちの方の一助にと、民生委員児童委員4人、主任児童委員1人、ボランティア2人で活動しています。 (吉田 懐子)

校区めぐり

□ 北 区

東三国丘校区 **住みたい町をめざして**

当校区は縦に長い地域で、校区のなかに中央環状線が走っています。

民生委員児童委員18人、主任児童委員1人で活動しています。地域によって高齢者が多い所もあります。新しいマンションや戸建て住宅が増えて若い家庭も多く、子どもたちが増えました。うれしいことです。

小学校も新築になり、クラスも増えて子どもたちの元気な声がよく聞こえます。

福祉委員会が中心になり、ふれあい喫茶・いきいきサロン・あつまれ元気っ子・お元気ですか訪問等が行われています。コロナ禍でできていなかった「子ども神輿」を、10月に行います。子どもたちも親も地域の人たちも参加して、みんなで「ワッショイワッショイファイト!」です。(森下 左文)

東浅香山校区 **高齢者お楽しみ会で若者と交流**

令和5年から、「東浅香山校区高齢者お楽しみ会」を再開しました。コロナ騒動前は東浅香山自治連合会で主催していましたが、令和5年・6年は民生委員児童委員会が主催することになり、同連合会の協力も得て開催しました。

大正琴の演奏、琴の演奏に合わせて河内音頭の踊り消防署による熱中症対策、救急で悩んだときの話、日本語学校で学ぶミャンマー・ネパール・フィリピンの女生徒による民族衣装での歌と踊り、ピエロに扮装したマジシャンの手品など十演目。

特に日本語学校の若い生徒さんの参加により、高齢者と若者の交流の場ともなり、有意義な時間でした。笑顔で無事に終了することができました。

(山口 久志)

五箇荘校区 **子育て世代の支援ががんばる!**

今、子育て世代の支援が最重要課題です。

当校区では月2回、子育てサークルを開催しています。歯みがき指導やベビーマッサージ、ママ対象のヨガ、食育などいろいろやっています。

冬はサンタクロースが来てプレゼントを配ったり、節分には連合自治会長みずから赤鬼に扮して、青鬼とともに大暴れ。「俺は泣かずで!」の画期的(?)なセリフで、会場は大盛り上がりでした。8月は地域会館駐車場で大小プールを用意して、水遊びをします。秋にはゴジラの着ぐるみのボディーに赤いハートのピ



ースを、キングギドラには金色の星型のピースを皆に貼ってもらい、両者が追いかけて対決します。そして、大勢の方に来てもらって大成功させる予定です。

(西羅 隆子)

五箇荘東校区 **町会会館で「健康体操」**

5年前の一斉改選で、半数以上が新任委員と若返って年が明け、いざこれからという時に新型コロナウイルス感染症がまん延。人と人との身体的・心のつながりがより難しくなり、専門機関への“つなぎ役”として歯がゆい思いの4年間でした。

民生委員児童委員の顔を覚えてもらう取り組みとして、各町会の会館で健康体操を実施。あわせてボランティア・ビューローを開設して、委員へ参加をお願いします。最近では、体操後におしゃべりタイムを設けている会場が増え、「井戸端会議」さながらです。

“つながり”と“信頼関係構築”の場として一石二鳥の取り組みなのですが、仕事のある委員から「平日の参加は難しい」と。課題もありますが、続けています。(平川 知和)

新浅香山校区 **地域の皆さんとともに!**

当校区は大和川の南にあり、五箇荘校区・五箇荘東校区から分離して今年で36年を迎える比較的新しい校区です。

現在、小学校は各学年1クラスのこじんまりとした目のいき届く規模となっています。

地域によっては世代交代も進んでいますが、高齢化率が高いなか、民生委員児童委員7人、主任児童委員1人で活動しています。地域には子ども食堂が2箇所運営されており、地道に続けることが大事なのではとがんばっています。

また、子育て支援、お元気ですか訪問も行われています。いきいきサロン等5箇所運営されていて、ユニークな取り組みを楽しみに参加されている方も多いです。

第一地域包括支援センターの協力のもと、「安心して住み続けられる地域」を目標に活動しています。

(池上 明美)

施設見学研修（健康福祉プラザ）

適切な情報共有と 見守りの大切さ

主任児童委員会



令和5年度の主任児童委員会研修会を実施するにあたり、各区研修担当委員で検討を行い、施設見学と研修を同日でコース別にしていく方法で、令和6年2月19日に開催しました。

見学施設は「堺市立健康福祉プラザ」、研修は同じ施設内会議室で、「堺市子ども相談所における児童虐待相談への援助」と題して、堺市子ども相談所職員から講演していただきました。

児童相談所の役割と機能などの説明、児童虐待相談および虐待対応件数の話がありました。特に虐待に関しては発見が難しく、対応もさまざまです。関係機関が連携をはかり、それぞれの機関が役割に応じた支援を行うことが必要です。そして主任児童委員としてどのような活動があるのかという点では、「見守り」が大切であると再認識しました。

子どもが抱える問題や状況をとらえ、関係機関で情報や支援を共有する、適切な連携のもとで対応することが重要であり、支援の輪が繋がると感じました。

研修担当 大西 京子

高齢者と向き合う

～顔と顔のお付き合い～

高齢者福祉委員会



「わたし、近ごろ忘れっぽくなっちゃって」
「家の中でもよく探し物をするんですよ」
「この間なんか、ずっと前に探していたものが見つかって、あっ！見つかった。ところが今、探しているものが何だったか忘れちゃって」
「やっぱり認知症が始まったんですかね」

このような話を高齢者の方からお聞きになった民生委員児童委員の方は多いのではないのでしょうか？委員の皆さんはどのようにお返事されていますか？

3月19日、堺市総合福祉会館で「高齢者総合相談窓口 地域包括支援センターを知ろう」をテーマに研修会を開催しました。認知症・健康相談・安否確認など対応に困ったときは地域包括支援センターへ相談を。

民生委員児童委員一年生の時、なじみのない地域での「お元気ですか訪問」の教訓から、自身を地域で知ってもらおう手立てを考えました。思い立ったのは登校時の見守り・積極的にあいさつをすること。

いつの間にか「ご苦労様です」と声をかけられ、独居高齢者の方と言葉を交わし合えるようになり、相手から相談も。

副委員長 家田 佑

障害の認識、適切な つなぎ方を学習

障害者福祉委員会



5月17日、委員長会終了後、今期1回目の研修会を行いました。講師に、障害施策推進課・齋藤隆晃課長補佐をお迎えし、「障害者福祉きほんの基」と題し①障害者とは、②堺市の障害者の状況、③障害者を支援する制度、④障害者を取り巻く法制度等の動き、⑤堺市の障害施策・相談窓口、についてわかりやすくお話をしていただきました。

障害をお持ちの方は一人ひとり課題が違い、障害が重なっている場合が多いため、民生委員児童委員として対応に悩んでしまいがちです。困りごとを理解し、いかに専門機関へつなぐことができるのか。

民生委員児童委員として障害への考え方、専門機関への適切なつなぎ方をご教示いただいたことは、今後の活動の基本となる有意義な研修であったと思います。

なお、講演資料は事務局が保存しています。ご希望の方はお問い合わせください。 副委員長 岸村 伸一

震度6弱以上の地震が起こったら

指定避難所設置と支援の内容は

堺市の災害対応

～情報提供・安全確保・衛生環境等～

堺市では、震度6弱以上の地震が発生した時、災害対策本部の立ち上げや避難所の開設など災害対応を進めるとしています。

そこで、地震発生後の避難所設置に伴い、どのような支援が想定されているか考えます。

堺市災害対策本部を自動設置し、避難所の開設を進める



指定避難所＜運営の主体＞

市民（校区自主防災組織・避難者等）
行政・施設管理者

避難所は市民、行政、施設管理者が協力して開設・運営されますが、大規模な災害では避難者同士の助け合いや協働の精神に基づく自主的な運営をめざします。

堺市では震度6弱以上の地震が発生（※津波警報または大津波警報が発表された場合も同様）した時、直ちに市および区の災害対策本部を立ち上げ、同時に避難所の開設など各種災害対応を進めることとしています。具体的には救出・救助、行方不明者の搜索、避難所への物資搬送、自治連合会・自主防災組織・避難者の人らによる共助との連携など。

【避難所の主な機能】

支 援 分 野	支 援 項 目	内 容
安全・生活等	安全の確保	生命・身体安全確保
	生活必需品の提供	水・食料・被服・寝具等の提供
	生活場所の提供	就寝場所の提供・暑さ寒さからの身体保護
保健・医療・衛生	健康の確保	健康相談などの保健医療機能
	衛生環境の提供	トイレ・入浴・ごみ処理
情報・コミュニティ	情報の提供	生活再建・仮設住宅・店舗の営業情報の入手
	地域コミュニティの維持・形成	避難者同士の助け合いや地域コミュニティの形成

想定される災害を知ろう

堺市で想定される自然災害（地震・風水害など）

	洪水	地震被害	内水氾濫	津波	高潮	土砂災害
堺区	○	○	○	○	○	
中区	○	○	○			○
東区	○	○	○			○
西区	○	○	○	○	○	○
南区	○	○	○			○
北区	○	○	○			○
美原区	○	○	○			○

堺市における風水害は、「内水氾濫」（大雨による下水道などの氾濫）、「外水氾濫」（河川の氾濫）、がけ崩れ・地滑りなどの「土砂災害」、台風による「高潮」などの風水害が発生することが予想されます。低い土地や河川・海岸・がけの近くの住宅は特に注意が必要です。

※災害の詳しい内容は、各区の防災マップなどで確認しましょう！

物資供給の流れ

体制の確立（⇒発災から1日目以降）

物資供給チームの設置、関係機関の被災状況把握
民間物流事業者等への車両・資機材等の要請
物資配送拠点の配置など

ステージ1（発災から1・2日目）

市備蓄物資の避難所への配送
府備蓄物資の要請・受入など

ステージ2（発災から2日目以降）

府、協定締結先への支援物資等の要請・受入・配送
物資配分計画の作成など

ステージ3（発災から約4日以降）

避難所ニーズの収集と支援物資等の要請・受入・配送、物資配分計画の作成など



交通の確保、電気・ガス・水道の確保は発災当初の初動段階から着手されますが、被害状況や医療機関、避難所など優先度も含めたなかで、配分計画

に基づいて行われることになります。

（※参考資料：堺市防災冊子『命を守るカギは「備え」です』ほか。堺市危機管理室）

御霊よ 安らかに

令和6年5月3日没

登美丘南校区 梁間 久夫 様

令和6年6月28日没

晴美台校区 松井 昌洋 様

編集後記

「民生委員・児童委員の日」をご存知でしょうか。今年も堺市民生委員児童委員連合会は、堺東駅前で理事・監事さんらが啓発活動を行いました。

暮らしの中には高齢者福祉・障害者福祉・子育て支援・防災・防犯と、さまざまなお困りごとがあります。身近な相談相手として、頼りにされる委員を目指したいと思います。

特集に、能登半島地震に行政職員が

支援活動に携わった記事があります。各地で地震が発生したとニュースが出るたびに、災害への意識が高まります。

今回、71号から3回連続で「校区めぐり」の記事を掲載する予定です。楽しみに読んでいただけたら幸いです。たくさんのご寄稿、ありがとうございました。

編集委員会に携わり、今後もより良い誌面づくりに励んでいきたいと思います。

福田校区 長澤 智恵子